第 28 回　日本骨粗鬆症学会での発表内容　　①

○研究課題

三原市医師会病院におけるデノスマブ 3 年以上継続症例の骨密度および骨代謝マーカーの検討

○研究趣旨

三原市医師会病院において骨粗鬆症に対してデノスマブ治療の 3 年以上継続した症例の臨床成績を検討すること

○倫理審査申請の要点

患者から得られたデータを学会に用いること

○研究の概要

2016 年から 2023 年に三原市医師会病院でプラリア治療を導入した 67 例中、3 年以上継続し経過観察可能であった 28 例を後ろ向き観察研究した。患者の背景は平均年齢 79.4±8.1 歳で、男性 2 例、女性 26 例であった。全例骨密度低下を認め、骨粗鬆症治療として開始した。前治療はなし 7 例、テリパラチド 11 例、ロモソズマブ 1 例、アレンドロネート 9 例であった。開始利用は遂次療法 17 例、腰痛および骨密度低下 7 例、脊椎圧迫骨折 3 例、橈骨骨折後 1 例であった。治療継続経過、骨密度変化、骨代謝マーカー、新規骨折の有無、副作用を評価した。

○研究等の対象および実施場所

三原市医師会病院の外来および入院で治療した骨粗鬆症患者を対象とした

○研究等における倫理的配慮

患者の名前、治療期間、治療内容の詳細は匿名で調査した

○問題が生じた場合の責任の所在

三原市医師会病院　整形外科医師　安原愼治

○その他特記事項

第 28 回日本骨粗鬆症学会でポスター発表した